

救護第20班 4月22日～4月29日 医師・有好 信博



鳴瀬診療所では1日に10～20人程度で急患はほとんどなく、薬をもらいにくる人など。地元の開業医が診療を始めた時期で、割と落ち着いた状態でした。診療所の仮設テントは津波の際に冠水したところで、海のヘドロが乾燥し風で舞い、アレルギーを起こすこともありました。



診療所近くの避難所への巡回診療は週2回行っており、うち1回(23日)の巡回に参加しました。高齢者や子どもたちが多かったけれど、その日は雨で、若い人たちも何人かいらっやいました。

近くを視察で回りました。道路の瓦礫は取り除かれていましたが、停電が続いていて、住居も1階部分が水で流され、2階に住んでいるとか、とても落ち着いて住める状態ではありませんでした。津波の被害が大きかった海沿いの地区は、すべてを流され、まるで一面の荒野でした。

被災者地の状況は、数週間前までは1日に80～100人の受診がありましたが、4月の下旬では既に医療フェイズではなく行政フェイズに移っていると感じました。被災者のみなさんは市役所へ住居や仕事を求めて相談に行っらっやったようです。

衣食などの支援物資は十分なようでしたが、避難所によってばらつきがあり、必要な物資が不足しているところもあり、行政がまだ把握しきれしていないのではないかと思います。